

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こじか園		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 22日		～ 2026年 1月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日		～ 2026年 1月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 21名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもにとっては、毎日通いたい園であること。	季節に合わせて、本物の経験ができるように取り組んでいる。農園体験では、苗植えから収穫、クッキングまでつなげたような取り組みをしたり、山や小川、田園など自然豊かな環境なので、四季折々の草花や昆虫、川魚、カブトエビなど、五感を感じながらの実践がある。また、基本的な生活習慣を身に付け、集団保育の中で、友だちとの関係や個々の発達に根差した保育内容を考えている。	職員研修に力を注ぎ、保育実践の底上げを図っている。また、子どもの発達について検討し、持っている子どもの力を分析し、子どもにとって当たり前の生活を願い保育にあっている。
2	保護者が園運営に協力的であること。	子どものために行っている保護者学習会や草引きなど、積極的に参加される保護者が多い。また、参加ができない場合も、手紙で情報を提供し、いろいろな思いが共有できるようにしている。保護者からの意見を取り入れ、今年度は家族全員参加自由なお食事会を開いたり、園自体も保護者会に協力しようと考えている。	保護者に対しては、意見箱を設置し、いつでも意見を言ってもらえる機会を作っている。職員間では、プロジェクトチームを立ち上げ、子どもも保護者も職員もみんな楽しい企画を考える会議を設定している。
3	よりいいものをめざした職員集団であること。	保育・給食・送迎・事務などそれぞれの職種があつまり、能率を上げる工夫や、取り組んでいることの意味を再確認し、不要な取り組みを切り捨て、よりよいものを充実させる委員会がある。	それぞれの職員が、笑顔で働き続けられるように、気配りや心配りのできる職員集団になるように、さまざまな研修を繰り返し行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	毎日通園の園児のみの療育である。	和歌山市には、認定こども園や幼稚園に通っていて、何らかの躰きのある子どもは多くいる。その子どもたちの療育を受ける権利を考えると、毎日通園のみの園児募集ではなく、広く、併行利用を可能にしたシステム作りが必要ではないかと考えている。	事業を展開するにあたり、場所の確保はもとより、保育士の確保も重要になってくる。例えば実習を受け入れてからのボランティア募集で関係性をとったり、学校終了後の働く場になるようなつながりを作っておくなど、療育に興味のある学生が集まるような施設運営を目指していく。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	公表日					利用児童数	回収数
こじか園	2026年 3月 24日					28名	28
チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	28				園庭や中庭があり、確保されていると思う。 広々とした園内で十分確保されている。 法に基づき、設置されている。 子どもにとってのびのびできるスペースだと思う。 広々と遊べるスペース、落ち着く為のスペース等確保されていると思う。	今後も、様々な活動で子どもがのびのび遊べる環境を守るように考えていく。	
2 職員の配置数は適切であると思いますか。	24	2	1	1	一人の先生が複数の役割についている。 親子保育の時でも子どもが別の部屋に行っても気付かれないことがある。 3:1で配置されている。	園の配置基準では、子ども4人に対して1人の職員のところを、3人に対して1人が対応できるようにしている。子どもの状態によっては、1対1の対応をすることもあり、集団で遊ぶことが課題の子どもに対して、1人の職員で対応することもある。親子保育では、保護者が保育に主体的に関わってもらえるように、あえて職員数を減らしている。子どもが活動から離れた場合は、まずは保護者に主体として関わって頂きながら保育者は必要なタイミングで関わっていくことが大切と考えている。しかし、親子の動きを把握できなかったかもしれない。意見を真摯に受け止め、保護者が保育者に気付かれていないと感じないような対応を考えていきたい。	
3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	27			1	トイレのスリッパの場所を以前と変えてみるなど、子どもが分かりやすいように対応してくださっている。 段差も少なく安全だと思う。 段差が少なく子ども用のトイレや椅子・机などがあったり、危険な物を置いていなかったりしているため、何をやる部屋なのか分かりやすい配置になっている。 冬は足元が寒い。 何をやる部屋なのか、分かりやすくなっていると思う。	子どもたちが分かり易い生活空間作りは、常に考えている。毎年同じではなく、よりよい生活空間作りに努めている。 冬は足元が寒くならないよう、上靴の使用している。子どもたちの服装にも注意を払っていく。	
4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	27	1			先生方がいつも綺麗にしてくださっているし、安全委員でもチェックしている。 外のハンドソープからクモの死骸が出てきたことがある。 小回りや部屋なども綺麗で清潔である。 時々、床にホコリ等ある事もあるが比較的清潔に保たれている。 いつもきれいに掃除していただいています。ありがとうございます。	外用のハンドソープについては、保護者の方から意見を頂いて以来、保育時間終了後に室内に入れるようにしている。他アリヤムカデ、ハチなど、生活空間に入っていないか、常に確認していきたい。	
5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	28				子どもの特性に合わせて支援してくださっていると思う。 子どもの事をとても理解してくれている。 丁寧に子どもと関わってくださっている。 一人一人の事を知り、子どもに合わせて保育をしてくださっている。		
6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	27			1	合っていると思う。 丁寧な保育であったり、ほんもの体験ができたりと、提供する支援内容と合っている。 合っていると思う。		
7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	26	1		1	いつも細かいところまで子どものことを見てくださっていると思う。 支援計画の内容から子どもの事を理解してくださっているのが伝わる。 一人一人に合った計画作成をしてくれている。 子どもの出来る事や課題に合わせて作成されていると思う。		
8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	27			1	設定されていると思う。 子どものことを理解してくださっていて、適切な支援内容を設定してくださっている。 しっかり設定されていると思う。		
9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	27			1	子どものことをよく見て支援してくださっていると思う。 子どもの発達に応じた支援をしてくれている。		
10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	26			2	色々な活動を体験させてもらっていると思う。子どもも楽しんでいる。 散歩や制作、リズムなど日々活動の内容をかえてくれていて、一人一人が楽しめるように関わってくださっている。 色々な活動をしてくださっていて良い経験になっている。		
11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	20	5	1	2	年長さんは文化祭のときに近くの園の子ともたちと交流があった。 山口地区の芋ほりや年長になると幼稚園の子との交流がある。 年長児以外は交流する機会がないように思う。	山口地区の連合自治会にお誘いいただき、地域の保育園、幼稚園、小学生、地域のみなさんと一緒にさつまいもの苗植えをする機会がある。今後も地域の幼稚園や認定こども園との交流の場を模索していきたい。 こじか園内でも年の違う園児と一緒に過ごす機会を作りたくと考えており、内容、年齢、どれくらいの頻度が適しているのか職員で話し合っている。就学前の5歳児は、関係を築くために可能な範囲で地域の方と交流したい。	
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	27			1	見学時入園前の説明会、入園後と何度も丁寧に説明してくださっている。	毎年、全保護者に参加を呼びかけ、保護者総会で説明させていただいている。欠席された方には後日、園に来られる日に説明している。	
13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	27			1	いつも分かりやすく説明していただいている。 家庭訪問や個人懇談の際に計画書を示しながら支援内容の説明があった。 支援計画について分かりやすく説明してくれている。	家庭訪問時や年2回の個人懇談の中で、説明している。	
14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	27			1	学習会を開いてくださっている。	年間で計画を立てて、保護者学習会を企画しながら保護者支援につながるよう考えている。また、保護者会や、交流会など保護者同士が関わり合えるような機会を作っている。	
15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	27			1	毎日のノートや電話連絡や親子保育の時に話して共通理解できていると思う。	保護者の方には、その日にあった伝えなければならないことは、連絡ノートや電話で伝えるようにしている。また、ご家庭での様子や困りごとなど、聞かせていただいている。今後も子どもの状況の共通理解ができるように努めていきたいと考えている。	
16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	28				個人懇談や発達相談があるから悩み、相談を聞いてもらっている。 面談もあり子どもの様子がよく分かる。 面談や発達相談、親子保育時など相談に乗っていただいたり、アドバイスを頂いたりしている。 個人懇談や発達相談をしてくださっていて、アドバイスをいただいたりしている。	年間を通して支援のできるように考えている。家庭訪問、個人懇談、グループ懇談、発達相談、セルフプラン時に相談などの機会や親子保育、連絡ノートでの助言など取り組んでいる。また、意見箱を設置し、いつでも相談を受けられるようにしている。	
17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	26	1		1	いつも話を聞いてくれて、肯定的に受け止めてくださっていると思う。 外のハンドソープからクモの死骸が出てきたことを説明した時に、自然が多いから仕方ないと否定された。その他の場面でも、人を傷付ける言動が多い職員がいる。 優しい先生ばかりです。 話を聞いて下さり、肯定的に受け止めてくださっている。 話を聞いてくれたり、子どもの気持ちよりそってくださっている。	子どものことを中心に保護者の方々の気持ちに寄り添いながら、支えていきたいと考えている。しかしながら、受け止める側の保護者に対して十分納得がいく話ができている場合もあつたのかもしれない。今後とも子どものこと、保育環境のこと、様々な意見に対して真摯に受け止め、対応していけるように取り組んでいきたい。	
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		3		2	2年目の今年は、保護者会の集まりなどを通じて色々な方と交流できたと思う。 親子保育での交流もあり親同士の交流が情報交換の場。 保護者同士の交流の機会がたくさんある。きょうだい保育というものはあるが、それ以外できょうだい同士の交流の機会はない。 保護者同士の交流はあっていないと思いますが、人間関係が得意ではないので、少し負担に感じる。	土日に親子保育をして、普段保育に参加しにくい父親が、保育に参加する機会を作ったり、土曜日にグラウンド整備のための草引きを保護者会に依頼したり、保護者会主催のバーベキュー大会を支援したり、してきた。園主催のため、人と関わることが苦手な保護者に対して、十分な配慮ができていたか、きょうだい同士の交流の機会をねらいに据えられていたかなどは課題として挙げられるが、今後も保護者会と共に、交流の場を作っていこうと考えている。	
19 こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	26		1	1	電話や連絡ノートで対応してくださっている。 令和6年にクモの死骸入りのハンドソープについて相談したが、職員2名が対応し、返事をくれるとのことでしたが、いまだに返事がない。対策の提案までしたが、放置されたままである。 面談や交流会、連絡帳など相談する機会ツールがたくさんあり、また相談後は迅速かつ丁寧に対応してくださる。 相談があれば、きちんと聞いてくださり対応してくれている。	保護者の抱える不安や悩み、意見を連絡ノートや電話でうかがい、共に考え解決に努めている。また、今年度から、保護者会の建物に『意見箱』を設置し、匿名でも園への要望を聞くことができるようになった。 前年度のハンドソープにクモの死骸が入っていたとの相談に対して、相談者に十分な返答ができていなかったことは、反省点として挙げられる。ハンドソープは、テラスで使用した後、室内で保管することにした。 また、歯ブラシコップの入れ物は衛生的ではないと相談があり、フタつきのものに変更した。いただいた相談は、真摯に対応していきたい。	
20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	28				いつも配慮してくれている。		

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	25	1	1	ママれんで行事予定や重要事項の連絡をしてくれている。 定期的にお手紙やメール等で情報提供してくれている。 園だよりに子どもたちの様子等を載せてくれている。	月に1回、園だよりを発行し、翌月の予定や、子どもの様子など、様々な企画を考えてお伝えしている。また、急な予定変更や、園だよりでは細かい内容を伝えられないときは、別の手紙で周知したり、緊急時は、ママ連メールにて情報提供を行っている。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	27			配慮されていると思う。	個人情報の取扱いに対しては、毎年4月に会議を行っている。また、実習生に対しても、大学・専門学校の担当者に個人情報の取扱いについて学生に周知するよう伝えている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	28			実施していると聞いたことがある。 マニュアルを毎年度始めに配布、説明してくれている。 定期的に訓練が行われている。	4月に保護者総会の中で、マニュアルを説明をしている。総会で質問や提案があれば、その都度対応し、より良いものを作っていきたいと考えている。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	28			行事予定にも入っているし、連絡ノートでも書いてくれている。 毎月子ども達で訓練を実施してくれている。それに加え、親子保育時にも訓練を実施している。 毎月行ってくれている。 様々なパターンを考えて、避難訓練等されていると思う。	毎月一回、避難訓練を行っている。訓練の種類は、火災・地震・風水害・不審者侵入の4つで、火災場所や不審者の侵入ルート、時間など、様々な状況下を想定した避難訓練をしている。また、年に2回は、保護者も参加して訓練を行ったり、職員だけの研修として、子どもを見失った場合どう対策をとるかという訓練を行っている。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	27		1	安全面について十分確保されていると思う。	国基準の子ども4人に対して保育士1人ではなく、子ども3人に対して保育士1人の配置を基本としている。また、嚥下のフォロー時は、1対1の対応をしたり、安全を守れる人数を考えて、保育士を配置している。人数確認では、送迎車には降ろし忘れ防止アラームを取り付けたり、10人程度のグループでの設定保育中は、人数把握を常に行う職員を配置したり、全員の30人での遊びの時には、人数把握をする職員を決めながら、安全確保を心がけている。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	28			電話やノートで連絡してくれている。 少しのケガでもすぐに報告してくれる。 毎回、擦り傷などのケガもその日に状況を説明してくれ、報告してくれている。 発生した時は連絡ノートや電話で報告してくださる。	病院受診をすべき緊急時には、提携病院への早期通院と共に保護者に対して連絡を取り、状況説明を行っている。また、子ども同士のトラブルによる外傷や、本人が転んでけがをしたことなど、緊急ではないものに対しては、連絡ノートや電話で連絡を取り、状況説明をしている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	28			毎日楽しく、自分らしく過ごしている。 親として安心して預けられる場所です。 怖がったりすることなく毎日楽しく過ごし、先生たちとの信頼関係も築けている。 二重マルを付けたいくらいです。 安心して通っていると思う。	自宅で骨折した園児がいる場合であっても、ドクターが通園しても大丈夫という許可があれば、車いすを手配するなど、可能な限り毎日子どもが通園できる方法を考えている。「毎日、楽しく過ごして家に帰る」を保障することが、子どもにとって安心感を持てる要素の一つと考えている。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	27		1	毎日笑顔で通っている。毎日楽しく通園している。 二重マルを付けたいくらいです。 毎日喜んで登園している。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	28			子どもだけでなく親にもたくさん声かけてくれる。 とても満足している。 丁寧に対応してくださり、満足している。 二重マルを付けたいくらいです。 とてもよくしてくださって大変満足しています。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こじか園		公表日		2026年 3月 24日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	21		5歳児、4歳児、それぞれ10名程度、2・3歳児で10名程度の定員を考えていて、今年度も5歳児10名、4歳児11名、3歳児・2歳児合わせて9名のグループを編成している。年により、入って来る学年の差がある場合は多目的室を利用し、一部屋に13名以上の子どもが集まらないように工夫している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	18	2	1クラス2~3名で対応しているのでもの子にも目が届きやすい。活動の内容によっては、ひとりひとりに丁寧なフォローがしにくい場合はあるが、園外保育などの場合など予測して、配置人数を変動するようにしている。職員の家族の体調不良が重なると、体制が取れない日はあったが、工夫しながら室内で製作や粘土遊びをするなどで、3人の所を2人でも可能な保育をすることもある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	21		トイレスリッパの片付けは足型のシートをひいて分かりやすくしている。朝、登園後は、園庭で体を動かして遊び、給食後は中庭で砂場など、体を動かすのではなく、じっくり見立て遊びを中心にを展開するようにしている。どこでも遊べるのではなく、一日の中でどこで遊ぶと子どもの生活にとっていいのかを考えながら設定している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	20	1	トイレのスリッパの収納について。あらかじめトイレの床にスリッパを置いておき、上靴を棚に置いてから、スリッパをはけるようにした。そのことで、用を足した後、上靴をはいて手洗いでできるようになり、清潔なトイレ指導をすることができた。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	21		職員室、多目的室、医務室等、個別で使用可能な環境がある。子どもが発熱した場合は、医務室で他の子どもと分けた保育ができるようにしている。また、様々な感染症への対策として、常に、空気清浄機を各部屋に設置し、空調と温度の管理を行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	21		行事後には振り返りを行い、次回へ活かせる意見交換をしている。毎日朝礼と反省で話し合い情報の共有をしている。新年度が始まってすぐに、職員それぞれに今年度の目標を決めてもらい、個人懇談の中で振り返るようにしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	20		園にも独自の意見箱を設置している。残念ながら、まだ投函する保護者はいない。しかし、行事や学習会などの後、保護者に感想を書いていただき、行事の改善点や、こんなことをしてみたいという意見をいただく事がある。振り返りの中で、職員で共有し、次につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	21		業務改善の委員会や運営にかかわる委員会などを設定しており、そこでの審議を職員会議の中で共有し、次の改善につなげるようにしている。	大人数のため、意見を言いづらい職員もいるかもしれないので、年に2,3回の面談をするようにしていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	15	1	行事などでは、来賓として他事業所の職員に見てもらったり、意見をいただくことを取り組み始めている。	積極的に保育の様子や、行事の様子を参観していただき、業務改善につながるようなシステムを作っていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	21		保育の実践を学ぶため、今年度は「つながり遊び・リズム」の研修会に参加した。代表で研修を受けるのではなく、保育現場のほぼ全員が同じ研修を受講することで、よりリズムに対しての園としての形ができたように感じる。伝達研修はあるが、実践の研修は今後も可能な限り、多くの現場職員で参加していきたい。虐待の研修や、権利擁護の研修など、法人の企画や、障害者団体が企画する研修など、広く情報を伝えている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	20		支援プログラムは、毎年公表している。保護者に対しても、公表し、不明点があれば相談していただくようにしている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	21		子どもの発達状況は、年に2回の発達相談や、各行事の中での集団の中でのそれぞれの子どもへの分析をしている。その中で、行事に参加しづらかった子どもの保護者には、今の子どもの状態を共有し、できないということだけではなく、子どもの全体をとらえた考え方になるような児童発達支援計画を提示している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	21		支援員、グループリーダー、主任等を交えて行っている。保育者同士でも子どもの様子などを話し合っている。必要な場合は、給食職員、送迎職員、事務員など意見を求めるようにしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	20		常にはいかないが、年2回の発達相談や、年2回のグループ総括のなかで、共有し計画の見直しを行うようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	16		毎日のグループごとの振り返りと全体の振り返りを通して、子ども一人一人の様子を確認し記録するようにしている。発達診断では、新版K式で年間2回の発達診断を行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	17		グループごとに個別支援を検討し、その情報をもとに、児童発達支援管理責任者が立案し、子どもの様子に合わせた内容を検討している。その際、具体的な内容であったり、目標設定など、子どもの様子にあわせながら、支援内容を設定している。	検討会議に時間がかかりすぎている。子どもの様子を知ることには時間をかける必要があるが、支援計画を立てやすいものにしていくか課題と考えている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	21		グループの主な保育士や主任保育士を入れて、活動プログラムの立案を行っている。活動内容については、各グループで立案し、その後、グループのリーダーと主任が入って、内容調整や確認を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	20		目標の立て方など、それぞれの子どもに合わせて、内容を検討しながら作っているので、いつも同じプログラムにはなっていない。	他の活動プログラムの考察を行い、常に新しいツールを考えていく必要性を感じる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	19		それぞれの個人の発達に応じた計画と、同じ年齢のグループの中での集団の計画と、例えば年長児であれば、園の中の全体の役割を支援計画に取り入れつつしながら、計画を立てて、取り組んでいる。	集団に入りにくい子どもに対して、どこまで集団活動が保障されているのか、期ごとに職員で確認する必要がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	21		朝の職員朝礼の際に、その日の役割を共有している。グループの活動については、それぞれのグループで確認をしている。	継続的な取り組みについても十分に支援内容の確認ができるようにしていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	21		保育終了後反省の時間を設けてその日の振り返りを行っている。	それぞれの子どものとってどうだったのかは話の中では出てきているが、グループ集団の中での取り組みとして、最善であったのかなどは十分にはできていない場合もある。どのような振り返りが有効か検討していく必要がある。

関係機関や保護者との連携	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	21		子どもの様子は、毎日記録している。また、同じ職員ばかりにならず、いろいろな職員の目を通して子どもをとらえられるように工夫している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	20		前期と後期の見直しの中で、次の課題や目標を意識しながら、子どもの様子をとらえ、今の様子の中の最善の目標設定ができるようにしている。	いろいろな文章の作り方がるので、ある程度、目標の文章は一定化し、子どもの様子が誰でもとらえやすいように工夫をしていきたい。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	20		障害児相談支援事業所の担当者とは、基本的には、その子どもの所属するグループの担当者が話をするようにしている。	子どもの様子を話す中、相手から分かりにくいとは言われたことがないので、このままのやり方でやっていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	19		保健センターからの申し送りを受けている。医療機関へは園で行った発達診断の資料や、園での様子を担当ドクターに送っている。学校関係では、5歳児は次年度の学校生活に向けて、地域の小学校に見学に行き、教育支援委員会にあげていただくようにしている。	他機関との連携はとても重要と考えていて、親が希望する相手に対しては、園での状況を伝えるように今後も連携していきたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	18		本園では併行利用はしていないが、次年度に移行を考える場合は保護者の意向を尋ね、必要があれば見学同行したり引継ぎをしたりするようにしている。	併行利用が可能になるような園運営を今後取り組んでいこうと考えている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	21		園に子どもの様子を見に来ていただいたり、書類で様子を伝えたりしている。学校が始まって、おおむね1ヶ月が経過してから、直接学校に出向き、子どもの様子の共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	10	1	見学に行かせてもらうなどしている。(行事等)生活発表会の取り組み学校を見学したり、2度の見学から、お話を遊びを作る上で、何を大切にしていかなど、研修につなげている。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	15		研修は積極的に参加するよう勧めている。発達の学習や、リズムなどの実技の実践など、一年を通して研修をしている。	自分たちが取り組んでいることを、広く社会に発信していくように様々な研修会で発表していく必要を感じる。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	15		子ども部会に参加し、今の和歌山市の中での課題や、他のセンターとつながっていくように考えている。	時間に限りがあり、話しきれないことが多い。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
保護者への説明等	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	18		11月にある山口地区の文化祭に幼稚園やこども園と同じ位置づけで参加させてもらっている。また舞台を借りる際に、幼稚園と交流させてもらっている。	子どもの発達状況に合わせて、交流内容や回数を考えていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	21		毎日の連絡ノートで様子を伝え、必要な場合は、電話や、園に来た時に親に対して園児の課題・つけてきた力の共有を行っている。	個人懇談の中では、十分な伝達を行えている。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	21		学習会で情報を共有したり、親子保育で保護者と保育者の関わり、保護者同士の話し合う機会を作っている。	働く保護者が増えてきていて、学習会に参加ができない保護者も多い。そのため、家族支援につながる交流の機会を作る上で、内容や時間設定が課題である。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	18		入園したときや、4月の保護者総会の中で、運営規定の開示や支援プログラムや負担額の説明等を行っている。欠席された方には、後日、園に来ていただき、同じ説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	20		年に2回の児童発達支援計画の開示で子どもの最善を考えて目標を設定していることや、どんなふうにしていくのかなどを詳しく伝達するようにしている。親の意向についても、一度、お家に持って帰って、家族で検討した内容を後日、意向として確認することもある。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	21		年に2回の児童発達支援計画の開示の中で、質問やわかりにくい表現がないか保護者に確認するようにしている。そのうえで、保護者に同意のサインをいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	21		個人懇談や、発達相談、毎日の連絡ノートで質問があった場合は、面談を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	20		親の会はあるがきょうだい同士で交流する機会はない。ただし親の会に連れてきたり、きょうだい保育にきたりした時に関わりはある。学習会で座学を学ぶだけではなく、妻の郷の作業所の見学ツアーを企画したり、交流が進むように内容を考えている。今年度は、家族揃ってのパーベキューなど、ペアレント・トレーニングにつながるような企画の後押しをしている。	父親同士の会などはうまく導くことができていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	21		質問や相談があれば迅速に対応をしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	20		園だよりにて園の様子伝えている。また、地域の機関誌や、法人の機関誌など、広く行っていることが伝わるようにしている。	
非常時等の	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	21		実習生をはじめ、全職員に徹底している。特に4月の職員会議の中では、虐待防止と、職員研修について、実施している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	20		子どもに対しては、その子どもに合わせて伝え方をしている。保護者に対しては情報共有できるように配慮はしているが、タイミングや伝え方の中で、うまくいかないケースもあった。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	16	1	園野菜を届けたりなどの交流はしている。コロナ禍以降直接的な関わり(行事に招待する)等はないが、逆にお誘いいただいて参加させてもらうことがある。(文化祭、苗植え、芋ほり)	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	21		避難訓練等定期的に行っている。4月の段階で、すべてのマニュアルは、職員に伝達している。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	21		避難の訓練は毎月行っている。また、時間や内容など、例年と同じにならないように考えている。年に一度、防災センターに依頼して、全職員に対して、救急救命の訓練を受けている。	職員に対して、大災害が起こってから、どう行動するかをもう少し、伝えていく必要を感じる。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	21		保護者に、熱性けいれんを起こしたり、てんかんの発作が起こるなど、必要な情報は、必ず保護者に確認をしている。座薬が必要な子どもは、送迎車に座薬を乗せている。	ワゴン車で座薬を投与しなければならない時、車内が非常に狭い。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	21		献立表を保護者にチェックしてもらい、アレルギーのある物は出さないようにしている。保護者に対しては、医師からの指示書を提出してもらっている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	21		年に2回、見失い捜索訓練を行っている。もしも、園児を見失った場合、どういう組織体制を敷き、対処するかを訓練している。咀嚼対応の必要な子どもに対して、対面で支援することを基本として、安全が確保できる支援内容を職員間で確認している。	

の 対 応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	19		車内での置き去りの起こらないように、装置をつけていることを保護者に伝えたり、何かあったときの対応の仕方は、4月の総会の中で説明をしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	20		ヒヤリハットは、積み重なると重大な事故につながるという意識を持って、毎月の職員会議の中で確認をしている。	毎月の職員会議の際に同じ子どものヒヤリハットが確認されたときは、次のヒヤリハットに出でこないように特に意識する必要がある。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	20		毎月の職員会議時に確認している。法人全体及び事業所内での研修を行っている。なぜ虐待がいけないのか、相手がどう思ったかを職員全員が常に考えていく必要がある。研修をする中、気付く職員は増えてきている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	19		入園説明会や、保護者総会の中で、確認をしている。川に落ちそうになったり、危険なものを口の中に入れていたり、チャイルドシートにしっかり乗り続けられないなど、こういう場合は、動かないように留め金で止めることを伝えている。また、児童発達支援計画の中でも記載して、保護者の同意を得ている。	